



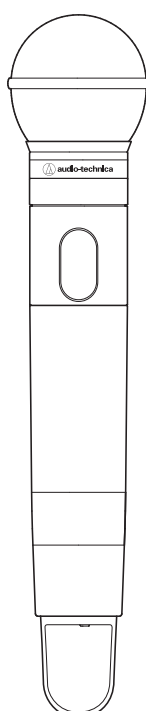
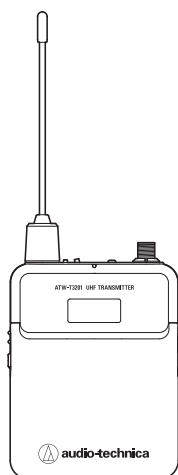
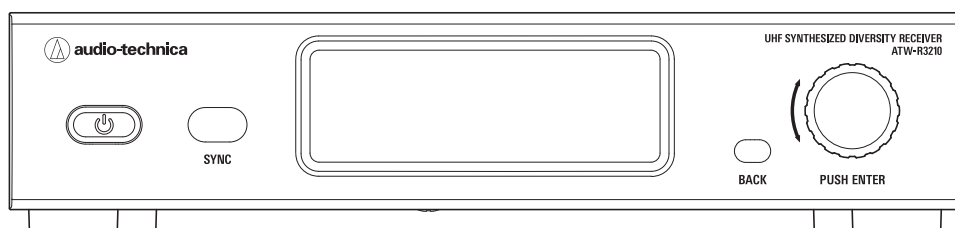
3000 Series

取扱説明書 UHFワイヤレスシステム

ATW-R3210
レシーバー

ATW-T3201
2ピーストランスミッター

ATW-T3202
ハンドヘルドトランスミッター



目次

はじめに.....	2	安定した受信のために	26
安全上の注意.....	2	ラックマウントの方法	26
本製品について.....	2	故障かな?と思ったら.....	27
ACアダプターについて	3	ATW-R3210	27
電池/充電式電池について.....	4	ATW-T3201/ATW-T3202.....	27
使用上の注意.....	5	外形寸法図.....	28
お手入れ.....	5	ATW-R3210	28
各部の名称と機能	6	ATW-T3201	29
ATW-R3210	6	ATW-T3202.....	29
ATW-T3201	8	テクニカルデータ.....	30
ATW-T3202.....	9	システム仕様.....	30
電池の入れかた	10	ATW-R3210	30
ATW-T3201	10	ATW-T3201.....	30
ATW-T3202.....	10	ATW-T3202.....	31
インターチェンジャブルマイクロホンカプセル着脱のしかた(ATW-T3202のみ) ...	11		
取り付けかた	11		
取り外しかた.....	11		
ディスプレイの見かた	12		
ATW-R3210	12		
ATW-T3201/ATW-T3202.....	14		
操作のしかた.....	15		
基本操作	15		
IR SYNCを使用する.....	15		
設定について.....	16		
ATW-R3210の場合	16		
ATW-T3201/ATW-T3202の場合	16		
ATW-R3210の設定	17		
設定項目一覧.....	17		
受信周波数を設定する.....	17		
チャンネル名を設定する.....	17		
オーディオ出力レベルを設定する	18		
空きチャンネルをスキャンする.....	18		
IR SYNCによる送信機の設定	18		
スケルチレベルを設定する	19		
システムに関する機能を設定する.....	19		
設定項目一覧.....	21		
送信周波数を設定する.....	21		
チャンネル名を設定する.....	21		
ATW-T3201/ATW-T3202の設定.....	22		
ゲインを設定する.....	22		
送信出力を設定する.....	22		
HPF(High-Pass Filter)を設定する.....	22		
ロックを設定する.....	22		
ファンクションボタンの機能割り当てを設定する.....	22		
ミュートモードを設定する(ATW-T3201のみ).....	23		
システムに関する機能を設定する.....	23		
取り付けかた(ATW-T3201)	25		
接続方法(基本接続).....	25		

はじめに




お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、いつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。

事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

 危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について

警告

- **心臓ペースメーカーの装着部位から15cm以内の場所では使用しない**
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。
- **本製品を医療機器の近くで使用しない**
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。医療機関の屋内では使用しないでください。
- **本製品を航空機内で使用しない**
電波が影響をおよぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。
- **自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない**
電波が影響をおよぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。
- **指定の電池／充電式電池以外使用しない**
故障、不具合の原因になります。
- **付属のACアダプター以外使用しない**
電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。
- **異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **火気に近付けない／火の付いたキャンドルなどを上に置かない**
火災の原因になります。
- **分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **水をかけない／水滴や水しぶきのかかる場所に置かない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **じゅうたんや布などで覆わない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない**
事故や火災の原因になります。
- **電源電圧設定を変えない**
火災の原因になります。

注意

- **すぐにコンセントからACアダプターを抜くことができる場所に置く**
電源を切っても、コンセントからは完全に遮断されていません。故障、不具合の原因になります。
- **不安定な場所に置かない**
本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。
- **換気の良い場所に置く**
本製品を換気の悪い場所に置くと、熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは、放熱をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。
- **直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。
- **本製品の上に物(花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属など)を置かない**
万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない**
変形、故障の原因になります。
- **アンテナで目を突いたりしない**
けがの原因になります。

安全上の注意

ACアダプターについて

警告

- 表示している電源電圧以外で使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。
- コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。
- コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
- コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
- 分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
- 布などで覆わない
過熱による火災など事故の原因になります。
- プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。
- すぐにコンセントからACアダプターを抜くことができるようにする
電源ボタンを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントからACアダプターを抜くことができるようにしてください。

注意

- 長時間使用しないときは、コンセントから抜く
火災の原因になることがあります。安全のため、必ずコンセントから抜いてください。また、省エネルギーにご配慮ください。
- 足に引っ掛かりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
- 通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

安全上の注意

電池／充電式電池について

指定電池／充電式電池以外は使用しないでください。

指定電池／充電式電池 単3形アルカリ乾電池(2本)または単3形ニッケル水素電池(2本)

⚠ 危険

- 電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、医師の診察を受けてください。
- 電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
・液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。
・万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で十分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

*1は充電式電池
*2は電池についてのみの内容になります。

- 火の中に入れてない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。
- 幼児の手の届く所に置かない
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。
- 電池は(+) (-)を逆に入れてない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 硬貨やカギなど金属製のものと一緒に場所に置いたり、電池の(+)と(-)を接続しない
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 乾電池は充電しない(*2)
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使い切った電池はすぐに取り出す
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 長期間使用しない場合は電池を取り出す
液漏れによる故障の原因になります。

⚠ 注意

*1は充電式電池
*2は電池についてのみの内容になります。

- 落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 以下の場所で使用、放置、保管しない
■直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
■炎天下の車内 ■ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
- 水に濡らさない
発熱、破裂、発火の原因になります。
- 指定の充電器、ACアダプター以外で充電しない (*1)
故障や火災の原因になります。
- 外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない
ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 変形させたりハンダ付けしない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 機器を使用したあとは必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。
- 指定の電池以外使用しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する(*2)
環境保全に配慮してください。

充電式電池のリサイクルについて

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子(金属部分)にテープなどを貼り付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ<http://www.baj.or.jp>をご覧ください。

使用上の注意

- ・ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- ・本製品を使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- ・ケーブルの抜き差しは、本製品の電源を切ってから行ってください。
- ・テレビやラジオのアンテナ付近で使用すると、テレビやラジオにノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- ・同じ周波数を同時に2波使用することはできません。
- ・周囲の電波環境や複数台使用により、干渉ノイズが発生することがありますので注意してください。
- ・ワイヤレスシステムは自動車のスパークノイズ、照明用調光装置、コンピューター、OA機器、電子楽器などの影響を受ける場合があります。影響を受けにくい位置に設置して使用してください。
- ・本製品は必ず当社指定の機器との組み合わせで使用してください。
- ・接続するケーブルのプラグは根元まで確実に差し込んでください。
- ・ミキサーに接続する場合、ファントム電源をオフにしてください。
- ・本製品の近くに電子機器や発信機(携帯電話など)があると本製品にノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- ・本製品を設置する際、受信機と送信機の間に電波をさえぎるような障害物がないようにしてください。
- ・電池／充電式電池の消耗を防ぐため、使用後や使用しないときは送信機の電源を切ってください。
- ・本製品は長い間使用すると、紫外線(特に直射日光)や摩擦により変色することがあります。
- ・本製品に貼られている技術基準適合証明シールを剥がすと法規上本製品を使用できなくなりますので、剥がさないでください。
- ・本製品を分解して改造を行う行為は、法規上禁止されています。また、本製品は精密にできており、分解すると感電や故障、火災の原因にもなります。絶対に行わないでください。

複数のワイヤレスシステムを使用する場合

- ・複数台同時使用の場合は、同一グループ内でお使いください。
- ・複数台同時使用の場合、送信機同士は1m以上、送信機と受信機は3m以上離してください。
- ・複数台使用する際は音をモニターしながら送信機の電源を順にオンにして雑音のないことをご確認ください。
- ・使用時にハウリング(ピー、あるいはキーンと言う音)が発生した場合、接続しているミキサー／アンプなどの出力ボリュームを絞ってください。

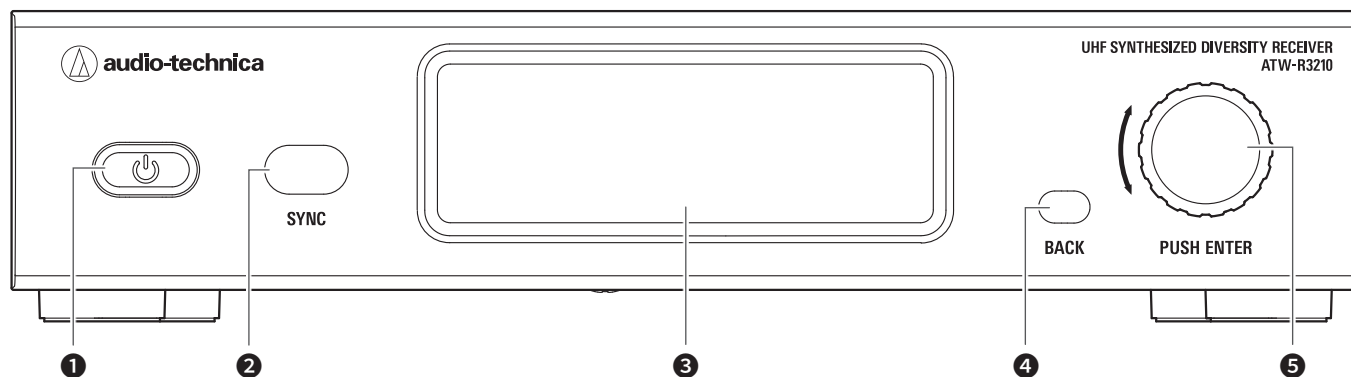
お手入れ


- ・汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ・ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しないでください。変形、破損、故障の原因になります。

各部の名称と機能

ATW-R3210

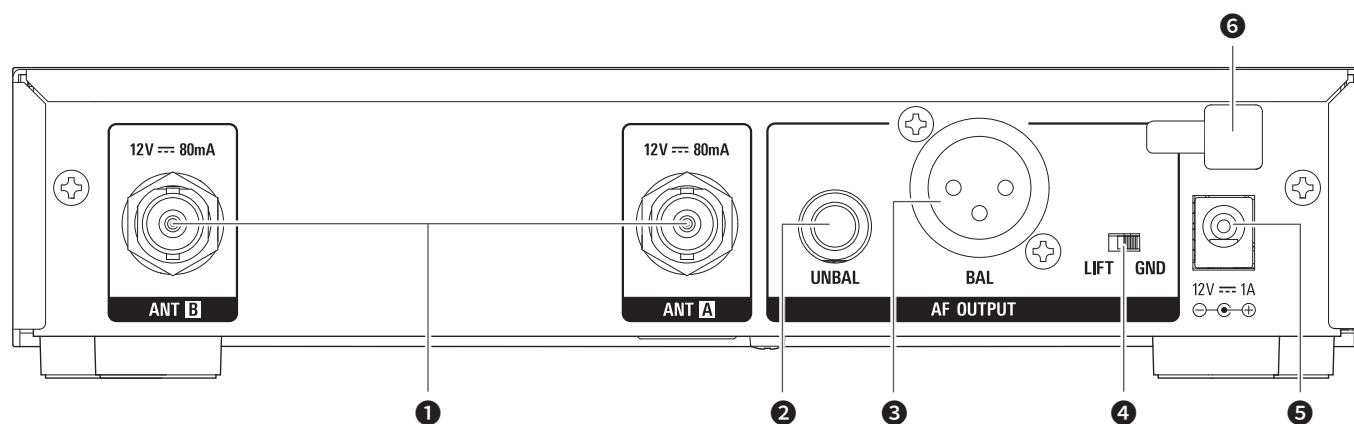
フロントパネル



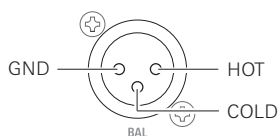
- ① 電源ボタン ()**
受信機の電源をON / OFFします。
- ② IR 受光部**
送信機 (ATW-T3201、ATW-T3202) との IR SYNC の際に使用します。
- ③ ディスプレイ**
受信機の状態や設定のメニューが表示されます。
- ④ BACK ボタン**
押すと前の画面に戻ります。
長押しするとメイン画面に戻ります。
- ⑤ コントロールダイヤル**
ダイヤルを回すと画面が切り換わります。
ダイヤルを押すと設定のメニューが表示されます。ダイヤルを回して設定項目を選び、押しで決定します。
ダイヤルを長押しすると、QUICK SYNC を開始します。

各部の名称と機能

リアパネル



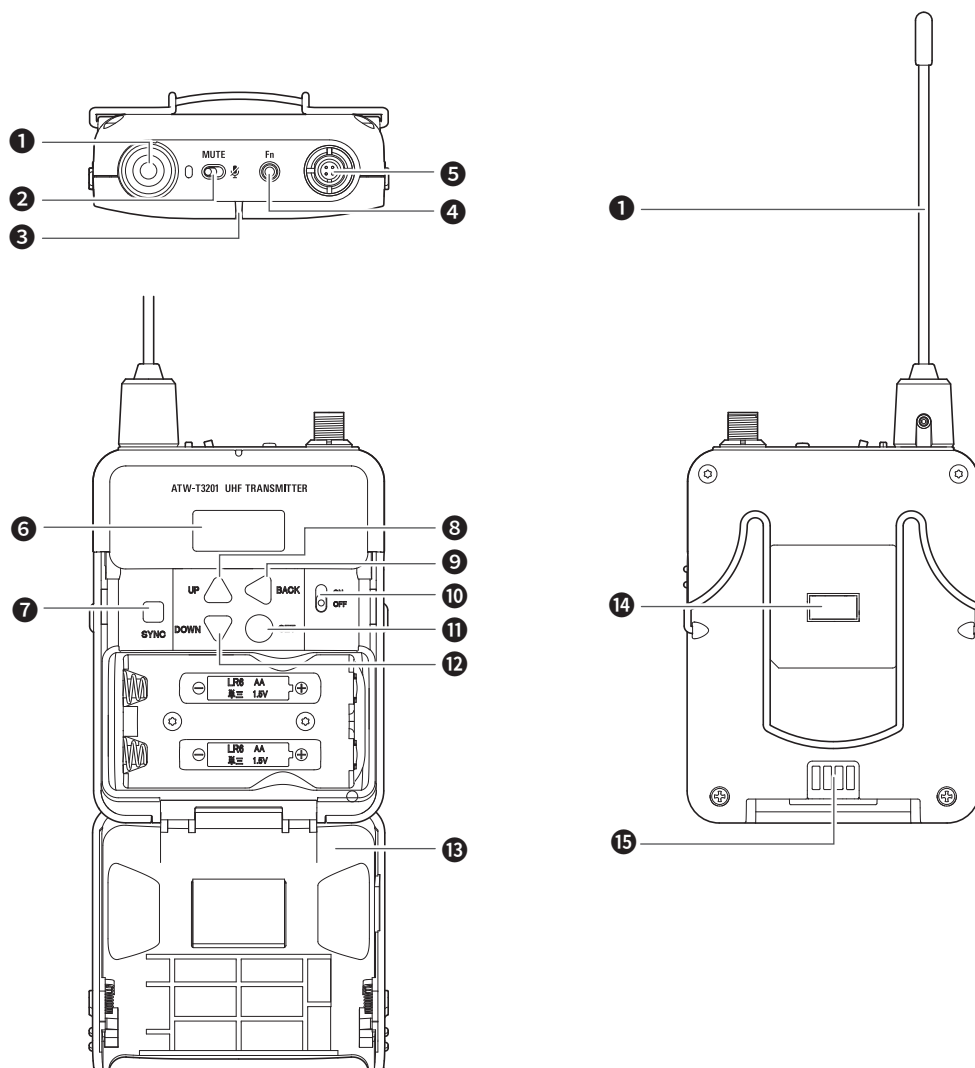
- ① アンテナ入力端子
各アンテナ端子からDC12Vの供給ができます。
また、アクセサリ（別売）の接続ができます。
- ② アンバランス出力端子（φ6.3mmモノラルジャック）
- ③ バランス出力端子（XLR 3ピン オス）



- ④ グランドリフトスイッチ
バランス・アンバランス出力のGNDピンをグランドから切り離すスイッチです。
通常は「GND」で使いますが、グランドループによるハム音が出る場合はスイッチを「LIFT」側に切り換えてください。
- ⑤ DC入力端子
ACアダプターを接続します。
- ⑥ ACアダプターコード抜け防止フック
ACアダプターの電源コードを掛けてください。コードが引っ張られても簡単に抜けなくなります。

各部の名称と機能

ATW-T3201



① 送信用アンテナ

② MUTEスイッチ

ミュート機能のON / OFFが切り換わります。

③ インジケータ

送信機の状態をLEDで表示します。

電源ON時: 緑点灯

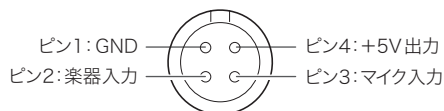
ミュート時: 赤点灯

④ ファンクションボタン

画面が消灯しているときに押すと、再点灯します。また、機能割り当てを設定していると、割り当てられた動作が行われます。

⑤ 入力コネクター

マイクロホン、ヘッドウォン、ギターケーブルなどを接続します。



⑥ ディスプレイ

現在の状態を表示します。
 30秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。

⑦ SYNCボタン

受信機(ATW-R3210)とのIR SYNCの際に、使用します。

⑧ UPボタン

各種設定など選択する際に使用します。

⑨ BACKボタン

押すと前の画面に戻ります。
 長押しするとメイン画面に戻ります。

⑩ 電源スイッチ

電源のON / OFFをします。

⑪ SETボタン

選択の決定時に押します。

⑫ DOWNボタン

各種設定など選択する際に使用します。

⑬ 電池カバー

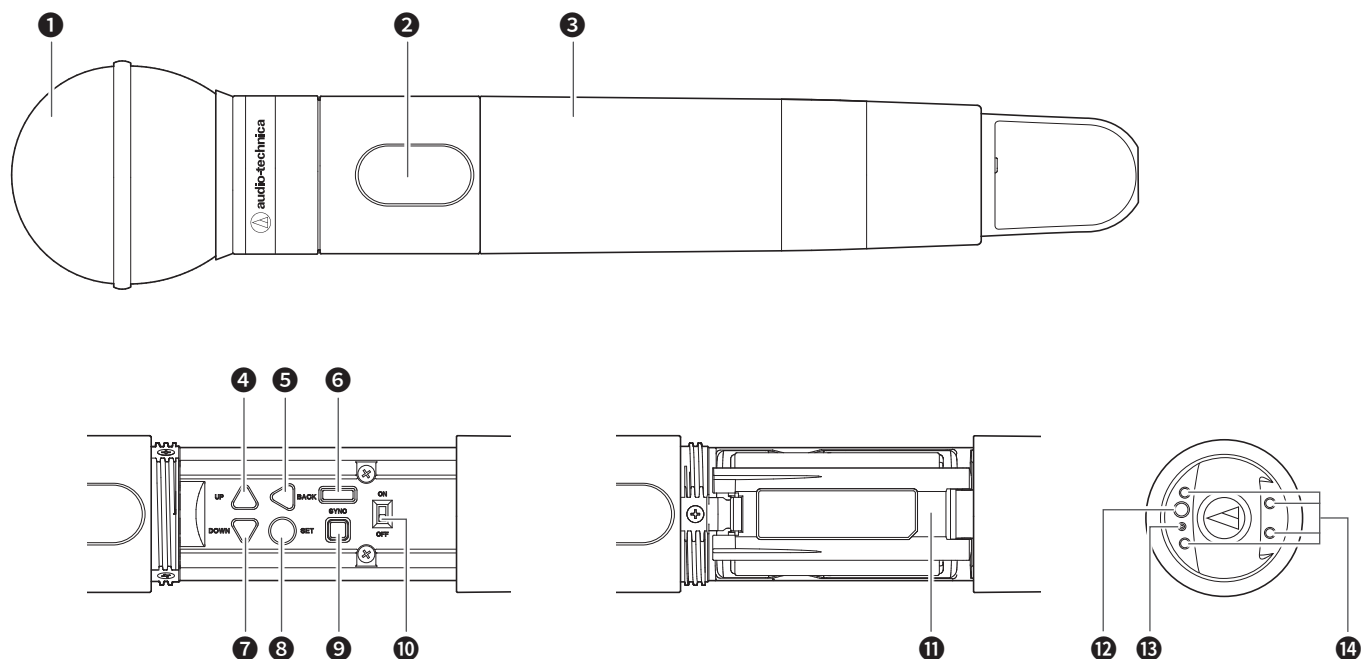
⑭ IR受光部

IR SYNCの際の受光部です。

⑮ 充電端子

各部の名称と機能

ATW-T3202

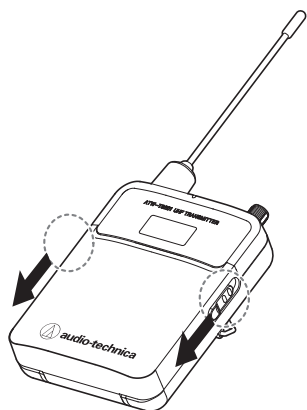


- ① インターチェンジャブルマイクロホンカプセル
- ② ディスプレイ
現在の状態を表示します。
30秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。
- ③ グリップケース
- ④ UPボタン
各種設定など選択する際に使用します。
- ⑤ BACKボタン
押すと前の画面に戻ります。
長押しするとメイン画面に戻ります。
- ⑥ IR受光部
IR SYNCの際の受光部です。
- ⑦ DOWNボタン
各種設定など選択する際に使用します。
- ⑧ SETボタン
選択の決定時に押します。
- ⑨ SYNCボタン
受信機 (ATW-R3210) との IR SYNC の際に、使用します。
- ⑩ 電源スイッチ
電源の ON / OFF をします。
- ⑪ 電池カバー
- ⑫ ファンクションボタン
画面が消灯しているときに押すと、再点灯します。また、機能割り当てを設定していると、割り当てられた動作が行われます。
- ⑬ インジケータ
電源・電池の状態を LED で表示します。
電源 ON 時：緑点灯
ミュート時：赤点灯
- ⑭ 充電端子

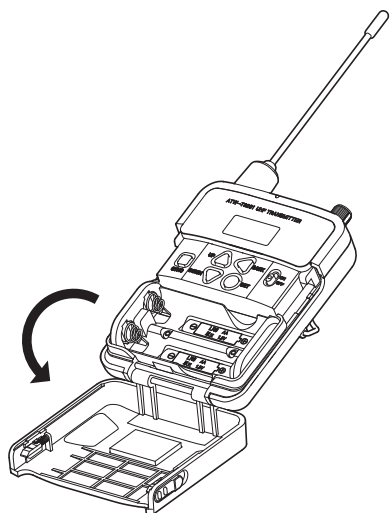
電池の入れかた

ATW-T3201

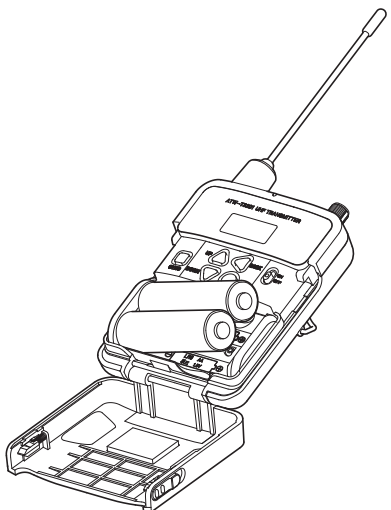
1. 電池カバーのノブをスライドさせます。



2. ノブをスライドさせた状態で、電池カバーを開けます。

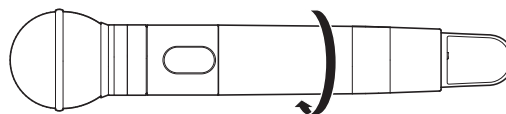


3. 本体に表示されている(+)と(-)の向きを確認して、正しく電池を入れます。

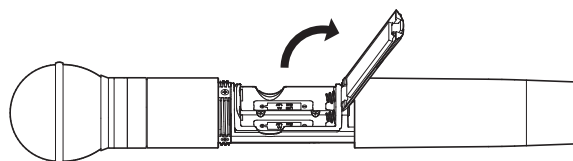


ATW-T3202

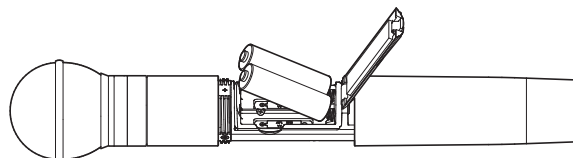
1. 本体のグリップケースを回転させます。



2. 裏側の電池カバーを開けます。
・ 電池カバーのツメに指をかけて、引きながら電池カバーを開けてください。



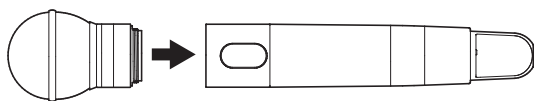
3. 本体に表示されている(+)と(-)の向きを確認して、正しく電池を入れます。



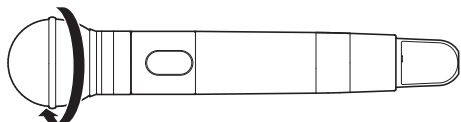
インターチェンジャブルマイクロホンカプセル着脱のしかた(ATW-T3202のみ)

取り付けかた

1. マイクロホンカプセルを本体に取り付けます。

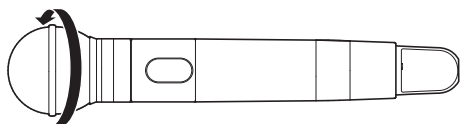


2. マイクロホンカプセルを回転させて締めます。

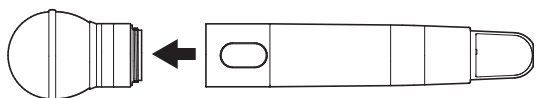


取り外しかた

1. マイクロホンカプセルを回転させて緩めます。



2. マイクロホンカプセルを本体から取り外します。

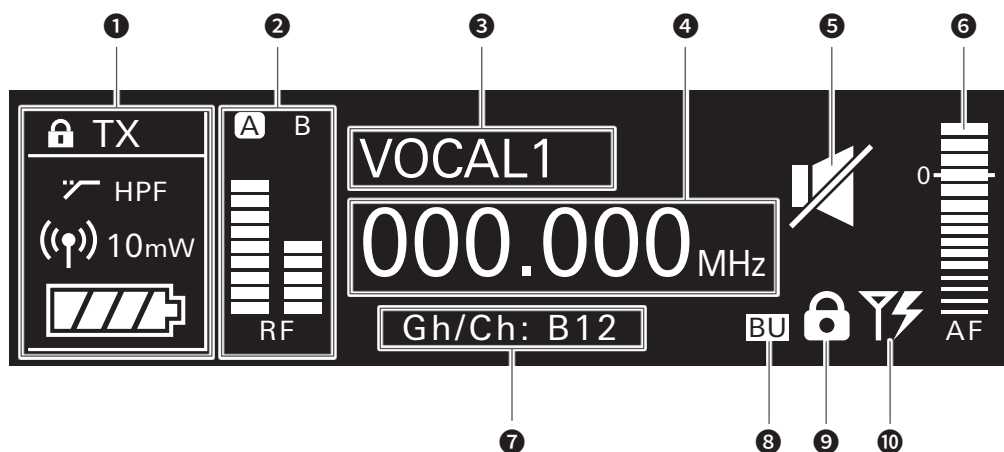


- ・ 接続面は、直接触れたり、傷を付けたりしないでください。
- ・ マイクロホンカプセルの取り付け／取り外しは、送信機の電源を必ず切ってから行ってください。
- ・ マイクロホンカプセルを取り付ける際、強い力で無理に取り付けしないでください。本体またはマイクロホンカプセルが破損する場合があります。

ディスプレイの見かた

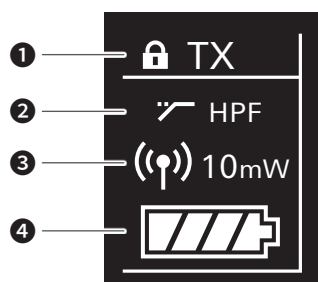
ATW-R3210

メイン画面

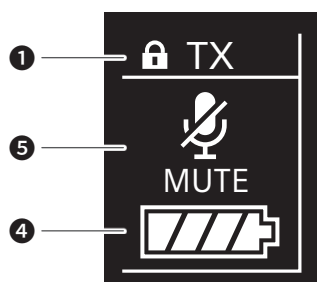


- ① 送信機情報表示エリア
接続している送信機の情報が表示されます。画面の表示については「送信機情報表示エリア」(p.12)を参照してください。
- ② RFレベルインジケータ
アンテナAおよびBのそれぞれの受信状態を表示します。
- ③ 名称表示
設定した名称を表示します。
- ④ 周波数表示
設定した周波数を表示します。
- ⑤ 受信機ミュート表示
受信機のミュート時にマークが表示されます。
- ⑥ AFレベルインジケータ
受信した音声信号のレベルに応じて点灯します。
- ⑦ グループ・チャンネル表示
- ⑧ 周波数バックアップ表示
周波数バックアップモードがONのとき、表示されます。
- ⑨ ロック状態表示
- ⑩ アンテナ入力電源表示
アンテナ電源の設定がONのとき、表示されます。

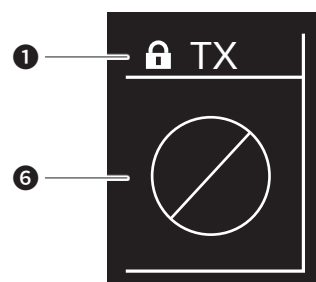
送信機情報表示エリア



通常時



ミュート時

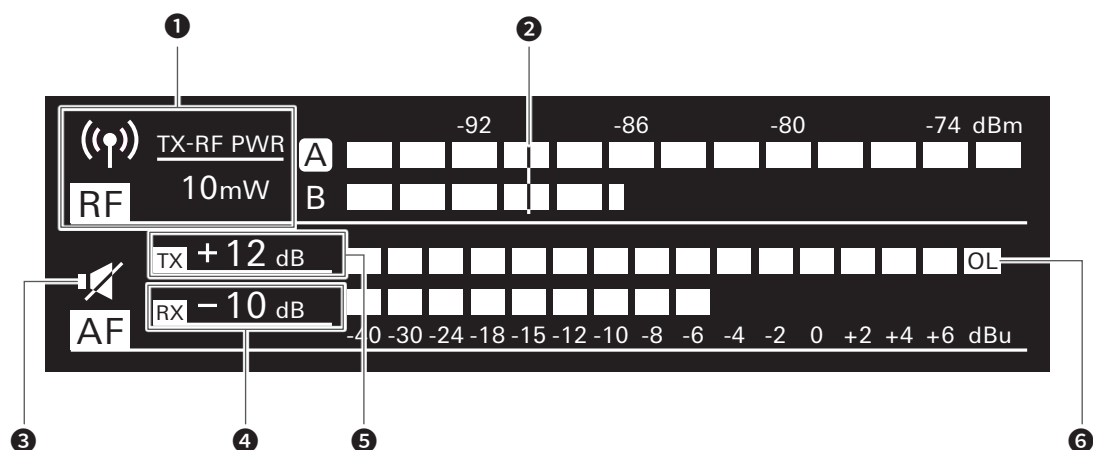


非通信時

- ① ロック状態表示
- ② ハイパスフィルター表示
- ③ 送信出力表示
- ④ 電池残量表示
- ⑤ 送信機ミュート表示
送信機のミュート時にマークが表示されます。
- ⑥ 送信機非通信表示

ディスプレイの見かた

レベルメーター画面



- ① 送信出力表示(送信機)
- ② マーカー(ミニマムホールド機能ON時)
RF レベルの最小値に固定されます。
- ③ ミュート表示
ミュート時にマークが表示されます。
- ④ オーディオ出力表示(受信機)
- ⑤ ゲイン表示(送信機)
- ⑥ オーバーロード(過大入力)表示

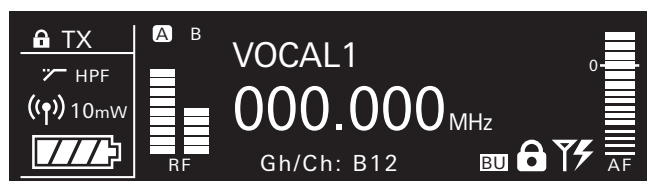
ミニマムホールド機能について

レベルメーター画面でBACK ボタンを押すと、ミニマムホールド機能がONになり、マーカーが表示されます。

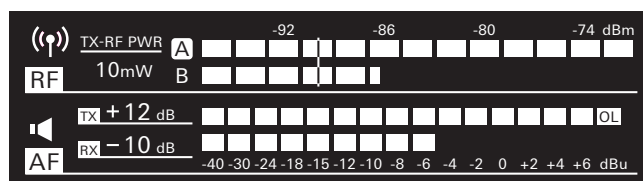
- ・ マーカーは、入力したRFレベルの最小値の位置に固定されます。
- ・ マーカーの位置より大きいRFレベルが入力されても、マーカーは動きません。
- ・ マーカーの位置より小さいRFレベルが入力されると、マーカーはRFレベルに合わせて動きます。
- ・ マーカーの位置をリセットするには、もう一度BACK ボタンを押します。

画面切り換えについて

コントロールダイヤルを右／左に回すたびに画面が切り換わります。



メイン画面

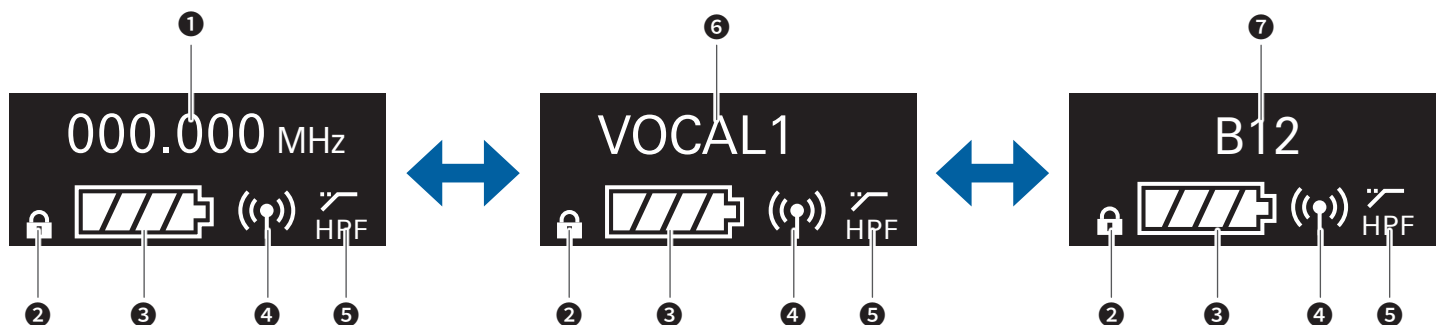


レベルメーター画面

ディスプレイの見かた

ATW-T3201 / ATW-T3202

電源をONにすると、メイン画面が表示されます。メイン画面でUP / DOWNボタンを押すと、画面表示が切り換わります。



① 周波数表示

設定した周波数を表示します。

② ロック状態表示

③ 電池残量表示

: 75%以上電池残量があります。

: 50～75%電池残量があります。

: 25～50%電池残量があります。

: 電池残量が25%以下です。

(点滅) : 電池を取り換えてください。

④ 送信出力表示

: RF Power High (10mW)

: RF Power Low (2mW)

: RF Power Off

⑤ ハイパスフィルター表示

⑥ 名称表示

設定した名称を表示します。

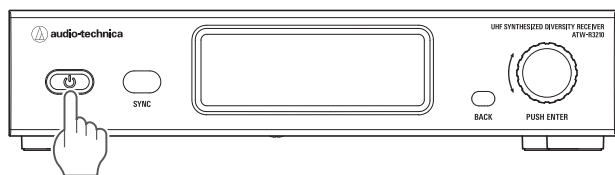
⑦ グループ・チャンネル表示

操作のしかた

基本操作

1. 受信機 (ATW-R3210) の電源ボタンを ON にします。

・ ディスプレイが点灯し、メイン画面が表示されます。



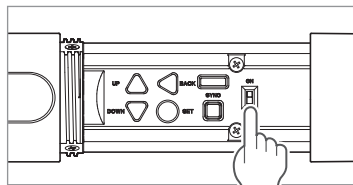
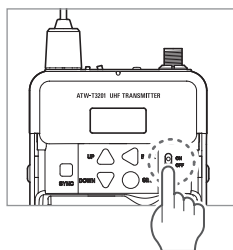
2. 受信する周波数を設定します。

3. 送信機 (ATW-T3201 / ATW-T3202) の電源スイッチを ON にします。

・ インジケーターが点灯し、ディスプレイにメイン画面が表示されます。

ATW-T3201

ATW-T3202



4. 送信する周波数を設定します。

5. RFレベルインジケーターを確認します。

・ アンテナ A / B のどちらかが点灯することを確認してください。

6. マイクロホンに音声を入力します。

・ A/Fレベルインジケーターが点灯することを確認してください。

・ 送信機の DOWN ボタンを押したまま電源スイッチを ON にすると、送信出力を OFF の状態で起動できます (RF OFF モード)。

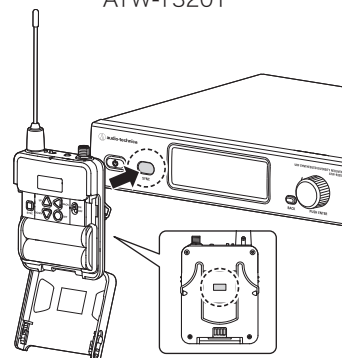
IR SYNC を使用する

受信機で設定した内容を IR SYNC で、送信機に設定できます。

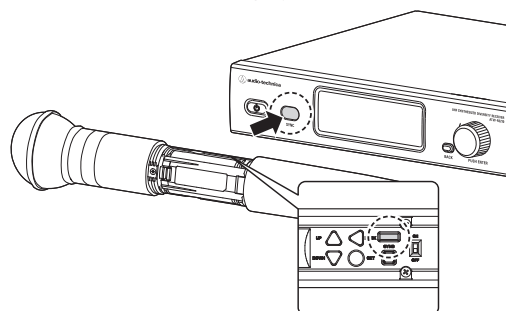
1. 受信機の設定から IR SYNC を開始すると、通信待機中の画面が表示されます。

2. 受信機の IR 受発光部と送信機の IR 受光部を向かい合わせます。

ATW-T3201



ATW-T3202



3. 送信機の SYNC ボタンを押します。

・ 通信が終了するまで数秒待ちます。

4. 受信機と送信機の SYNC が完了すると、完了画面が表示されます。

・ 受信機で設定した内容が送信機に SYNC されます

・ SYNC に失敗した場合は、エラー画面が表示され、メニュー画面に戻ります。受信機と送信機の IR 受光部を確認し、再度 SYNC を行ってください。

・ SYNC をキャンセルする場合は、BACK ボタンを押してください。1つ前の画面に戻ります。

QUICK SYNC を使用する

QUICK SYNC を使用すると、受信機の周波数とチャンネル名を送信機に簡単に送ることができます。

1. メイン画面でコントロールダイヤルを長押し (約2秒) します。

2. 「Sync」を選択し、コントロールダイヤルを押します。

・ 通信待機中になります。IR SYNC を実行してください。

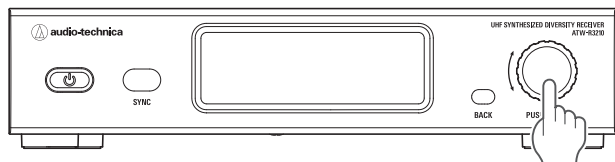
設定について

ディスプレイに表示されるメニュー画面から本製品の各種設定ができます。

ATW-R3210の場合

1. コントロールダイヤルを押します。

- ・メニュー画面が表示されます。



2. コントロールダイヤルを回して、設定したい項目を選択します。



3. コントロールダイヤルを押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。

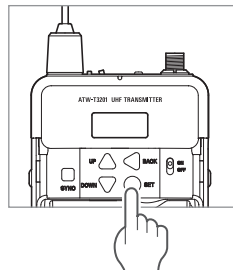
- ・BACK ボタンを押すと1つ前の画面に戻ります。
- ・途中で設定を中止する場合はBACK ボタンを押します。
- ・設定画面に入った状態でボタン操作を約60秒行わないと、メイン画面に戻ります。

ATW-T3201 / ATW-T3202の場合

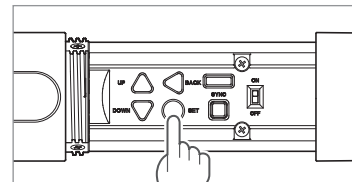
1. SET ボタンを押します。

- ・メニュー画面モードになります。

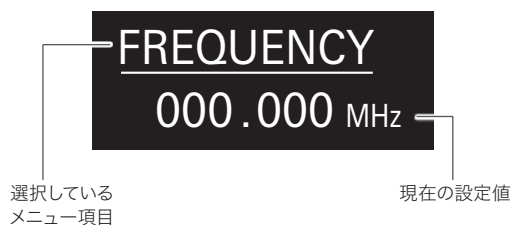
ATW-T3201



ATW-T3202



2. UP / DOWN ボタンを押して、設定したい項目を選択します。



3. SET ボタンを押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。

- ・BACK ボタンを押すと1つ前の画面に戻ります。
- ・途中で設定を中止する場合はBACK ボタンを押します。
- ・設定画面に入った状態でボタン操作を約30秒行わないと、メイン画面に戻ります。

ATW-R3210の設定

設定項目一覧

FREQUENCY	MANUAL	受信周波数を設定します。
	Gr/Ch	
NAME		チャンネル名を設定します。
AUDIO		オーディオ出力レベルを設定します。
GROUP SCAN		空きチャンネルをスキャンします。
TX SYNC		IR SYNCによる送信機の設定をします。
SQUELCH	AUTO	スケルチレベルを設定します。
	MANUAL	
UTILITIES	LOCK	受信機の設定を変えることができないように設定します。
	ANT PWR	アンテナ入力端子に電源を供給するかを設定します。
	BACKUP FREQ	バックアップの周波数を設定します。
	DISPLAY	メイン画面の中心に大きく表示される項目を設定します。
	AF METER	メイン画面のレベルメーターを、受信機か送信機のメーターに切り換えます。
	BRIGHTNESS	ディスプレイ輝度を設定します。
	RESET	受信機を工場出荷時の状態にします。
	VERSION	受信機のバージョンなどの情報を表示します。

グループ/チャンネルから設定する

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「FREQUENCY」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. 「Gr/Ch」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
3. コントロールダイヤルを回して、グループ・チャンネルを設定します。設定完了後、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

チャンネル名を設定する

設定できる文字は以下のとおりです。

- ・ 入力可能文字数は8文字です。

英字(大文字)	数字
記号(+、-、#、&、ピリオド)	スペース

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「NAME」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回して、設定したい文字を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 文字が入力され、カーソルが移動します。
3. 手順2と同じ操作を行い、すべての文字を入力します。
4. コントロールダイヤルを回して、「End」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

受信周波数を設定する

手動で設定する

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「FREQUENCY」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. 「MANUAL」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
3. コントロールダイヤルを回して、受信周波数を設定します。設定完了後、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

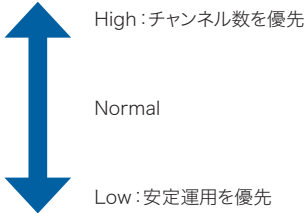
ATW-R3210の設定

オーディオ出力レベルを設定する

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「AUDIO」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回してオーディオ出力レベルを設定します。
 - ・ コントロールダイヤルを回すたびに2dB ずつ調整します。
 - ・ -60～0dB まで設定できます。
3. コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

空きチャンネルをスキャンする

現在使用している環境で、未使用のチャンネルをスキャンします。

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「GROUP SCAN」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回してスレッシュホールドを選択します。スレッシュホールド選択後、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 「Normal」／「High」／「Low」から選択できます。
 - ・ スキャンが開始されます。
3. スキャン結果を確認し、コントロールダイヤルを回して「OK」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ もう1度スキャンをし直す場合は、「Retry」を選択します。
4. 使用可能なチャンネルと周波数が一覧で表示されます。コントロールダイヤルを回して、使用可能なチャンネルを選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

IR SYNCによる送信機の設定

本項目で設定した内容をIR SYNCで、送信機に設定できます。設定項目と設定値は以下のとおりです。

設定名	設定値
Freq	現在の設定値、NoChange
Name	現在の設定値、NoChange
RF Pwr	Low:2mW、High:10mW、NoChange
Gain	-10～+20dB、NoChange
Lock	Lock、Unlock、NoChange
Batt	Alkaline、Ni-MH、NoChange
HPF	OFF、ON、NoChange

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「TX SYNC」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回して、項目を選択し、コントロールダイヤルを押します。
3. コントロールダイヤルを回して設定値を選択し、コントロールダイヤルを押します。
4. 手順2、3と同じ操作で、各設定を行います。
5. コントロールダイヤルを回して「SYNC START」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 通信待機中になります。以降は「IR SYNCを使用する」(p.15)を参照してください。

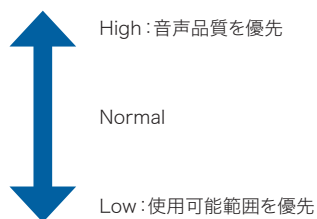
ATW-R3210の設定

スケルチレベルを設定する

自動で設定する

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「SQUELCH」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回して「AUTO」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
3. コントロールダイヤルを回して、「Normal」／「High」／「Low」を選択し、コントロールダイヤルを押します。

・「Normal」／「High」／「Low」から選択できます。



- ・ スキャンが開始されます。
- ・ エラーが表示された場合は、現在の周波数がすでに使われているか、ノイズが大きいため、受信周波数を変更してください。

4. スキャン結果が表示されます。コントロールダイヤルを押します。
- ・ 設定が完了します。

手動で設定する

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「SQUELCH」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 2. コントロールダイヤルを回して「MANUAL」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 3. コントロールダイヤルを回して、設定したい数値を選択します。
- ・ 表示されているメーターはRFレベルを表示しています。
 - ・ 1～13のレベルの間で設定できます。
 - ・ スケルチレベルが小さいときは、送信機の使用範囲が広がりますが、ほかの電波の影響を受けて雑音が発生する場合があります。スケルチレベルを大きくしていくと送信機の使用範囲が狭くなっていきますが、ほかの電波の影響を受けにくくなり雑音が発生しにくくなっていきます。
4. コントロールダイヤルを押します。
- ・ 設定が完了します。

システムに関する機能を設定する

ロックの設定

受信機の設定を変更できないように設定します。

- ・ 初期状態は「Unlock」に設定されています。

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 2. コントロールダイヤルを回して「LOCK」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 3. コントロールダイヤルを回して「Lock」／「Unlock」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
- ・ 設定が完了します。

アンテナ電源の設定

アンテナ入力端子に電源を供給するかを設定します。

- ・ 初期状態は「Off」に設定されています。
- ・ 設定を「On」にすると、アンテナA、Bの両方に電源を供給します。

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 2. コントロールダイヤルを回して「ANT PWR」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 3. コントロールダイヤルを回して「On」／「Off」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
- ・ 設定が完了します。

ATW-R3210の設定

周波数バックアップモードの設定

バックアップの周波数を設定しておく、送信機で送信機・受信機の周波数を切り換えることができます。使用する周波数を簡単に切り換えたいときに設定しておく便利です。

- ・ 初期状態は「Off」に設定されています。
1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 2. コントロールダイヤルを回して「BACKUP FREQ」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 3. コントロールダイヤルを回して「On」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 4. コントロールダイヤルを回して、「Manual」／「Gr/Ch」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 「Manual」を選択すると、周波数の設定ができます。
 - ・ 「Gr/Ch」を選択すると、グループ／チャンネルの設定ができます。
 5. 各項目を設定したあと、コントロールダイヤルを回して「Set」／「Sync」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 「Set」を押すと、設定が完了しますが、別途IR SYNCを行う、または手動で送信機の周波数バックアップモードの設定を行う必要があります。
 - ・ 「Sync」を押すと、設定が完了したあと、IR SYNCの待機画面になります。IR SYNCを実行してください。
 - ・ 「Sync」完了後、ファンクションボタンの機能は「Bkup Freq」に切り換わります。

メイン画面レイアウトの設定

メイン画面の中心に大きく表示される項目を設定します。

- ・ 初期状態は「Frequency」に設定されています。
1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 2. コントロールダイヤルを回して「DISPLAY」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 3. コントロールダイヤルを回して「Frequency」／「Name」／「Gr/Ch」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

メイン画面レベルメーター表示の設定

メイン画面のレベルメーターを「受信機(Rx)」か「送信機(Tx)」のメーターに切り換えます。

- ・ 初期状態は「Rx」に設定されています。
1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 2. コントロールダイヤルを回して「AF METER」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 3. コントロールダイヤルを回して「Rx」／「Tx」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

ディスプレイ輝度の設定

・ 初期状態は「High」に設定されています。

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回して「BRIGHTNESS」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
3. コントロールダイヤルを回して「High」／「Low」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 設定が完了します。

初期化

受信機を工場出荷時の状態にします。

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回して「RESET」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
3. コントロールダイヤルを回して「Yes」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
4. 確認画面が表示されたあと、もう一度コントロールダイヤルを回して「Yes」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
 - ・ 初期化が開始されます。

受信機のバージョン確認

受信機のバージョンなどの情報を表示します。

1. メニュー画面からコントロールダイヤルを回して「UTILITIES」を選択し、コントロールダイヤルを押します。
2. コントロールダイヤルを回して「VERSION」を選択します。

ATW-R3210の設定

設定項目一覧

FREQUENCY	MANUAL Gr/Ch	送信周波数を設定します。
NAME		チャンネル名を設定します。
GAIN		ゲインを設定します。
RF POWER		送信出力を設定します。
HPF		HPF (High-Pass Filter)を設定します。
LOCK		ロックを設定します。
Fn BUTTON		ファンクションボタンの機能割り当てを設定します。
MUTE MODE (ATW-T3201のみ)		ミュートモードを設定します。
UTILITIES	BATTERY	使用する電池の種類を設定します。
	LED	インジケータを常時点灯するかを設定します。
	RESET	送信機を工場出荷時の状態にします。
	VERSION	送信機のバージョンを表示します。

送信周波数を設定する

手動で設定する

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「FREQUENCY」を選択し、SETボタンを押します。



FREQUENCY
000.000 MHz

2. 「MANUAL」を選択し、SETボタンを押します。



FREQUENCY
MANUAL

3. UP / DOWNボタンを押して、送信周波数を設定します。設定完了後、SETボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

グループ/チャンネルから設定する

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「FREQUENCY」を選択し、SETボタンを押します。



FREQUENCY
000.000 MHz

2. 「Gr / Ch」を選択し、SETボタンを押します。



FREQUENCY
Gr/Ch

3. UP / DOWNボタンを押して、グループ・チャンネルを設定します。設定完了後、SETボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

チャンネル名を設定する

設定できる文字は以下のとおりです。

- ・ 入力可能文字数は8文字です。

英字(大文字)	数字
記号(+、-、#、&、ピリオド)	スペース

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「NAME」を選択し、SETボタンを押します。



NAME

2. UP / DOWNボタンを押して、設定したい文字を選択し、SETボタンを押します。
 - ・ 文字が入力され、カーソルが移動します。

3. 手順2と同じ操作を行い、すべての文字を入力します。
 - ・ 8文字入力しない場合は、UP / DOWNボタンを押して、「End」を選択し、SETボタンを押してください。

4. 8文字目でSETボタンを押します。
 - ・ 「End」が表示されます。

5. SETボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

ATW-T3201 / ATW-T3202の設定

ゲインを設定する

1. メニュー画面からUP / DOWN ボタンを押して、「GAIN」を選択し、SET ボタンを押します。



2. UP / DOWN ボタンを押して、ゲインを選択します。
 - ・ UP / DOWN ボタンを押すたびに、2dB ずつ大きく / 小さくなります。
 - ・ -10 ~ +20dB まで設定できます。
3. SET ボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

ロックを設定する

1. メニュー画面からUP / DOWN ボタンを押して、「LOCK」を選択し、SET ボタンを押します。



2. UP / DOWN ボタンを押して、「Lock」 / 「Unlock」を選択します。

Lock	ロック状態
Unlock	ロック解除状態

3. SET ボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

送信出力を設定する

1. メニュー画面からUP / DOWN ボタンを押して、「RF POWER」を選択し、SET ボタンを押します。



2. UP / DOWN ボタンを押して、送信出力を「High:10mW」 / 「Low:2mW」 / 「Off」から選択します。
3. SET ボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

ファンクションボタンの機能割り当てを設定する

ファンクションボタンを押したときの、機能を割り当てます。

1. メニュー画面からUP / DOWN ボタンを押して、「Fn BUTTON」を選択し、SET ボタンを押します。



2. UP / DOWN ボタンを押して、設定したい機能を選択します。

Disable	機能なし
PushToMute (ATW-T3201のみ)*1*2	押している間ミュート (ロック状態でもミュート可能)
PushToTalk (ATW-T3201のみ)*1*2	押している間音声入力が可能 (ロック状態でも音声入力可能)
Mute (ATW-T3202のみ)	長押しするたびにミュート ON / OFF
MuteOnLock (ATW-T3202のみ)	長押しするたびにミュート ON / OFF (ロック状態でもミュート可能)
QuickMute (ATW-T3202のみ)*2	押すたびにミュート ON / OFF
Bkup Freq	長押しすると周波数バックアップモード(選択すると、周波数、グループ、チャンネルを設定します。)
RF Off	長押しするたびに送信出力 ON / OFF

*1 この機能を選択していると、ミュートモードで設定したMUTE スイッチの機能は使用できません。

*2 この機能を選択していると、画面が消灯しているときに押して再点灯させる機能は使用できません。

HPF (High-Pass Filter) を設定する

1. メニュー画面からUP / DOWN ボタンを押して、「HPF」を選択し、SET ボタンを押します。



2. UP / DOWN ボタンを押して、「On」 / 「Off」を選択します。
3. SET ボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

3. SET ボタンを押します。
 - ・ 設定が完了します。

ATW-T3201 / ATW-T3202の設定

ミュートモードを設定する(ATW-T3201のみ)

MUTEスイッチの機能を設定します。

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「MUTE MODE」を選択し、SETボタンを押します。



2. UP / DOWNボタンを押して、設定したいモードを選択します。

Mute	ミュート
MuteOnLock	ミュート(ロック状態でもミュート可能)
Disable	機能なし

3. SETボタンを押します。

・設定が完了します。

システムに関する機能を設定する

電池の設定

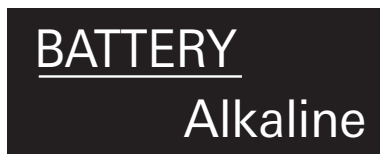
使用する電池の種類を設定します。

・初期状態は「Alkaline」に設定されています。

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「UTILITIES」を選択し、SETボタンを押します。



2. UP / DOWNボタンを押して、「BATTERY」を選択し、SETボタンを押します。



3. UP / DOWNボタンを押して、電池の種類を選択します。

Alkaline	アルカリ乾電池を使用する場合に選択します。
NiMH	ニッケル水素電池を使用する場合に選択します。

4. SETボタンを押します。

・設定が完了します。

・使用する電池と同じ設定を行わないと、電池残量表示が正しく表示されません。
必ず使用する電池に合わせた設定を行ってください。

インジケータの設定

インジケータの「On」 / 「Off」を設定します。

・初期状態は「On」に設定されています。

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「UTILITIES」を選択し、SETボタンを押します。



2. UP / DOWNボタンを押して、「LED」を選択し、SETボタンを押します。



3. UP / DOWNボタンを押して、「On」 / 「Off」を選択します。

4. SETボタンを押します。

・設定が完了します。

初期化

送信機を工場出荷時の状態にします。

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「UTILITIES」を選択し、SETボタンを押します。



2. UP / DOWNボタンを押して、「RESET」を選択し、SETボタンを押します。



3. UP / DOWNボタンを押して、「Yes」を選択します。

4. 確認画面が表示されたあと、もう一度UP / DOWNボタンを押して、「Yes」を選択します。

5. SETボタンを押します。

・初期化が開始されます。

ATW-T3201 / ATW-T3202の設定

送信機のバージョン確認

送信機のバージョンを表示します。

1. メニュー画面からUP / DOWNボタンを押して、「UTILITIES」を選択し、SETボタンを押します。

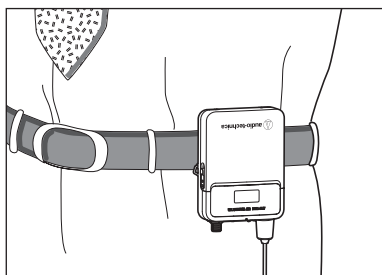


2. UP / DOWNボタンを押して、「VERSION」を選択し、SETボタンを押します。
 - ・バージョンが表示されます。

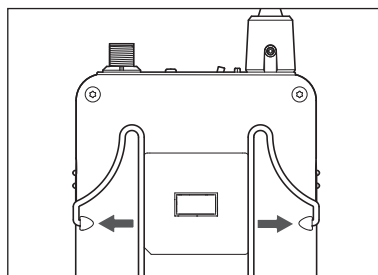


取り付けかた(ATW-T3201)

ATW-T3201にはクリップが付いているため、ベルトなどに取り付けて使用してください。



クリップを逆方向に取り付けると、入力コネクターの向きを逆にすることができます。

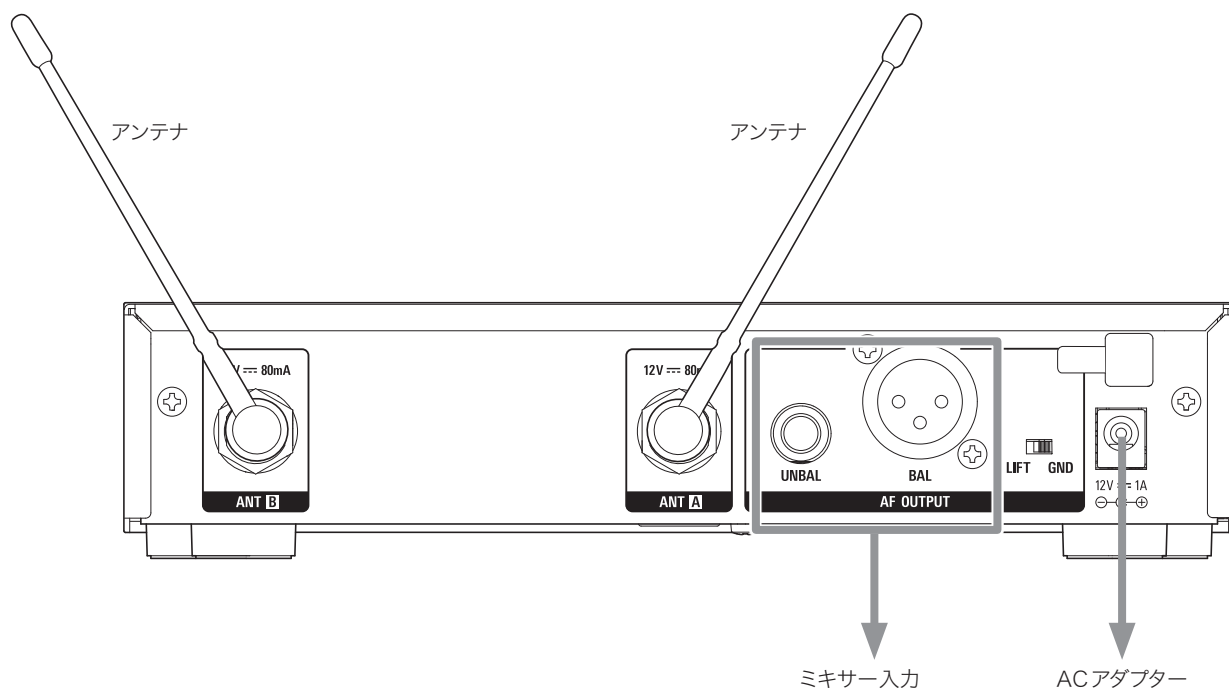


クリップを送信機から取り外す際は、クリップの両側を強く外側へ引いてください。

接続方法(基本接続)

受信機を1台で使用する場合の接続例です。

複数台接続する場合は、別売りの分配器の取扱説明書を参照ください。

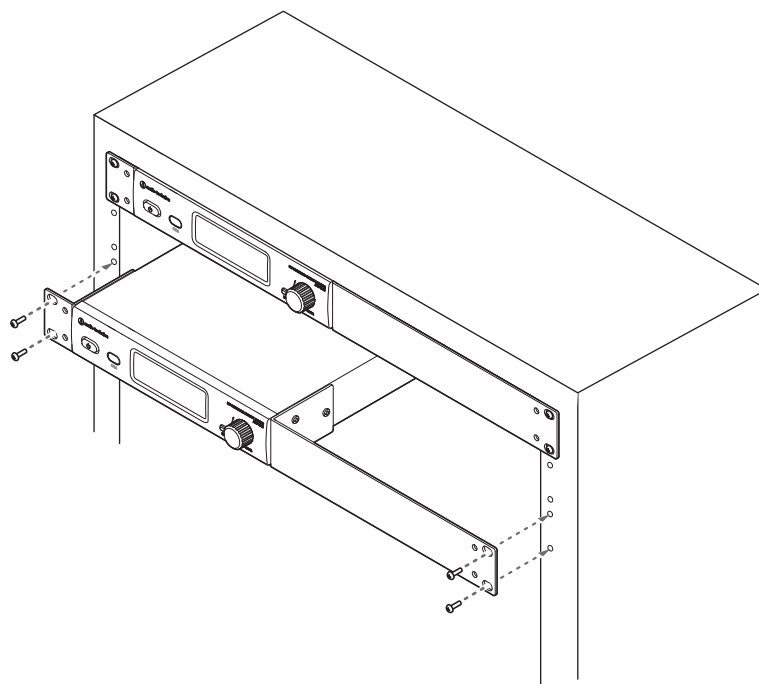


安定した受信のために

受信機のアンテナと送信機の間には障害物があると、電波が充分届かない場合があります。見通しの良い場所に設置してください。設置場所が限定される場合は外部アンテナ(別売)をご使用ください。

ラックマウントの方法

- ・ラックへの取り付けねじは付属していません。
- ・ラックマウントの際はラックの内部に熱がこもらないように、換気に配慮してください。



故障かな?と思ったら

ATW-R3210

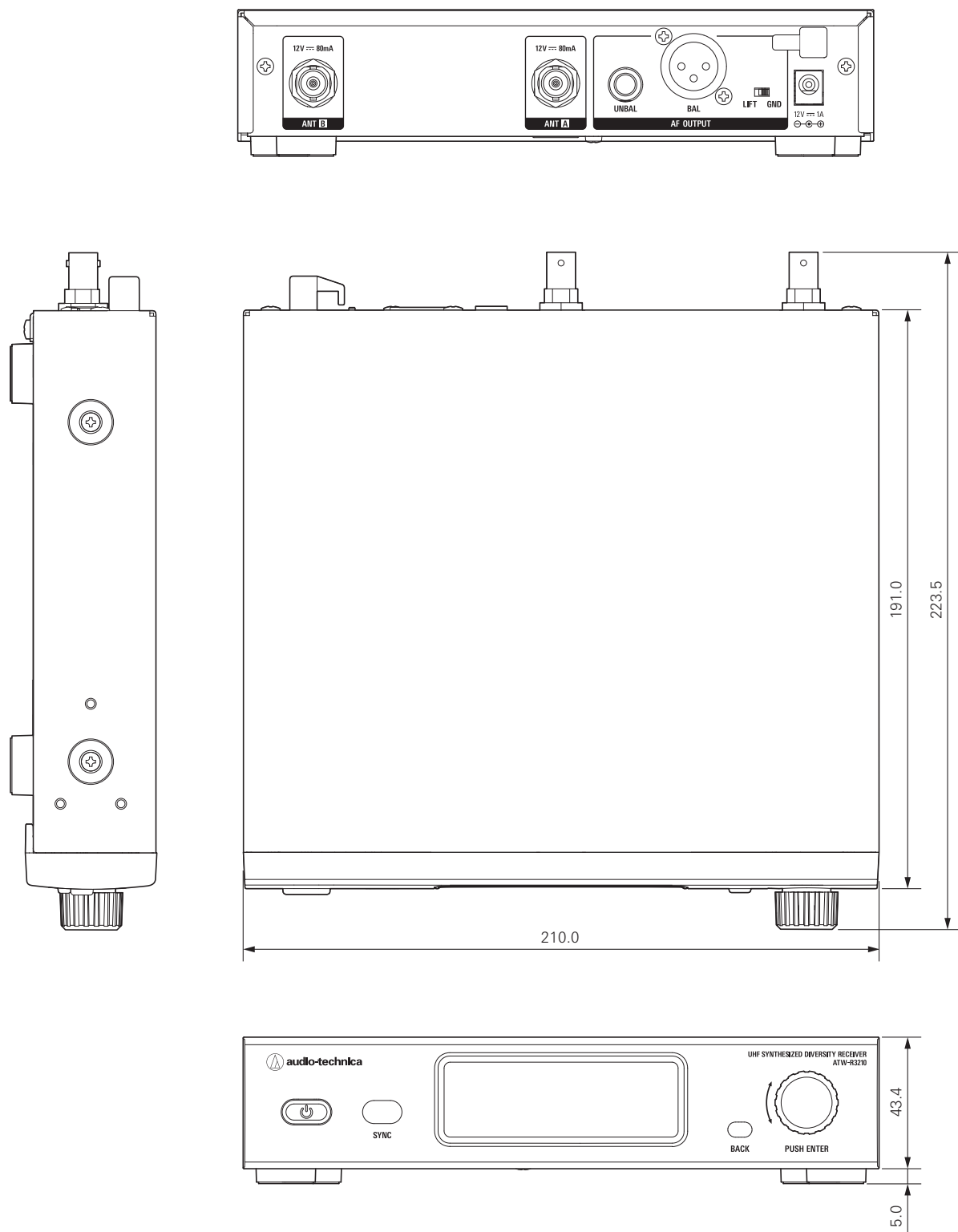
症状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない。	ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。	-
音が出ない。音声が小さい。	受信機、送信機のチャンネルが違ってないか確認してください。	p.17, p.21
	受信機の電源ボタンがOFFになっていないか確認してください。	p.15
	アンテナが外れていないか確認してください。	-
	ミキサーなどの外部接続機器と受信機との接続が外れていないか確認してください。	-
	オーディオ出力レベルが最小になっていないか確認してください。	p.18
	受信機に接続しているミキサーなどの外部接続機器の音声出力ボリュームが小さくなっていないか確認してください。	-
音が歪む。	オーディオ出力レベルが大きすぎないか確認してください。	p.18
	外部接続機器のボリュームが大きすぎないか確認してください。	-
ノイズが出る。	受信機の近くに蛍光灯や電気機器などのノイズ発生源がないか確認してください。	-
	異なるグループ間で同時に複数台使用していないか確認してください。	-
	受信機の出力端子からの接続が正しく行われているか確認してください。	p.25
	受信機をノイズの多い機器と同じコンセントから電源を取っていないか確認してください。	-
	近くで同じ周波数帯のワイヤレスシステムを使用していないか確認してください。スケルチレベルの調整を行ってください。	p.19

ATW-T3201 / ATW-T3202

症状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない。	電池が入っているか確認してください。	-
	電池が消耗していないか確認してください。	-
	電池が正しい向きに入っているか確認してください。	p.10
音が出ない。音声が小さい。	受信機、送信機のチャンネルが違ってないか確認してください。	p.17, p.21
	電源スイッチがOFFになっていないか確認してください。	p.15
	RF PowerがOFFになっていないか確認してください。	p.22
	ミュート状態になっていないか確認してください。	p.22
	送信機の送信出力が小さくなっていないか確認してください。	p.22
	マイクロホンまたはギターケーブルが外れていないか確認してください。(ATW-T3201のみ)	-
	ギターなどの楽器の出力ボリュームが最小になっていないか確認してください。	-
	マイクロホンカプセルが正しく接続されているか確認してください。(ATW-T3202のみ)	p.11
音が歪む。	送信機のゲイン設定が大きすぎないか確認してください。	p.22
ノイズが出る。	送信機の近くに蛍光灯、LED照明や電気機器などのノイズ発生源がないか確認してください。	-
	異なるグループ間で同時に複数台使用していないか確認してください。	-
	送信機の送信出力が大きすぎないか確認してください。	p.22

外形寸法図

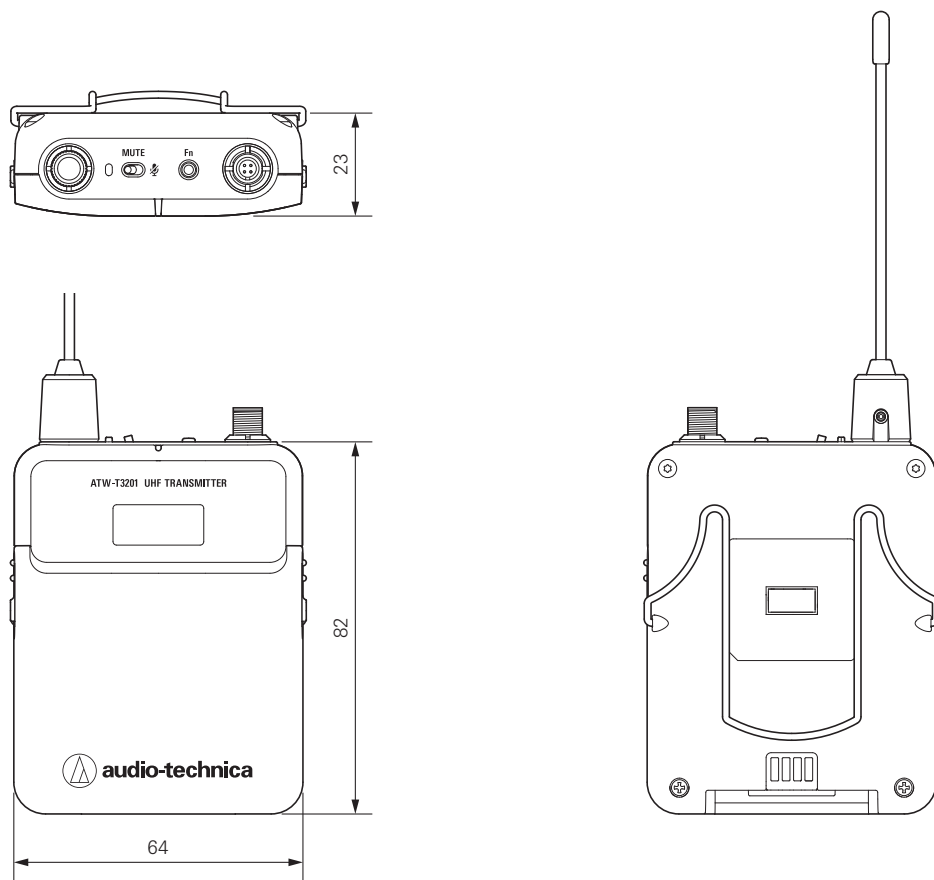
ATW-R3210



(単位: mm)

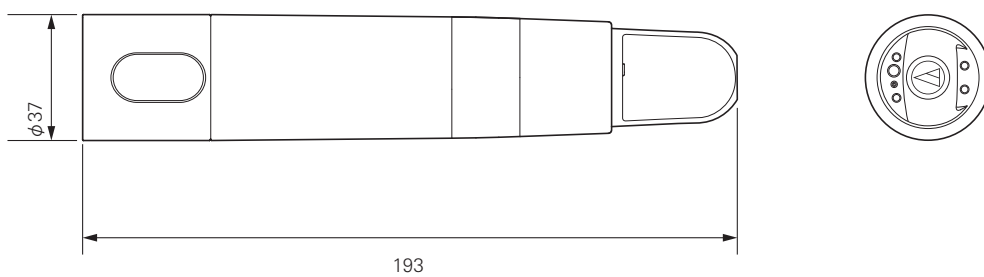
外形寸法図

ATW-T3201



(単位: mm)

ATW-T3202



(単位: mm)

テクニカルデータ

システム仕様

通信周波数帯	Band HH1 : 806.125~809.750MHz(周波数個数:30)
最小周波数ステップ	125kHz
変調方式	FM
最大周波数偏移	ATW-T3201 : ±38 kHz (THD : 10%) ATW-T3202 : ±36 kHz (THD : 10%)
ダイナミックレンジ	ATW-T3201 (Mic input) : 115dB以上、A-weighted、typical ATW-T3201 (Inst input) : 112dB以上、A-weighted、typical ATW-T3202 : 115dB以上、A-weighted、typical
全高調波歪率	1.0% 以下 (at 1kHz, ±17.5kHz deviation)
動作範囲 ^{*1}	100m
周波数特性 ^{*2}	ATW-T3201 : 31~15,500Hz ATW-T3202 : 25~16,700Hz
最大同時使用(推奨)	6チャンネル

*1 干渉信号のない開けた環境。

*2 取り付けられたマイクロホンによって異なります。

ATW-R3210

受信方式	ダイバーシティ
イメージ妨害比	60dB nominal
受信感度	20dBuV (SN比 60dBA) (50Ω termination)
最大出力レベル	XLR、バランス、+14dBV 6.3mm、アンバランス、+8dBV
アンテナ入力	BNC型、50Ω
アンテナ供給電圧	DC12V, 160mA (A/B合算)
電源	AC100~240V 50/60Hz DC12V 1A (センタープラス) スイッチング外部電源
動作温度範囲	-5 °C ~ 45 °C
外形寸法	210.0×191.0×43.4mm (W×D×H)
質量	約1.1kg
付属品	ラックマウント (長・短)、ラックマウント用ねじセット、ホイップアンテナ×2、ACアダプター

ATW-T3201

RF出力	High : 10mW, Low : 2mW (switchable)、at 50Ω
入力端子	
	4ピンロックコネクタ (ピン1: GND、ピン2: INST INPUT、ピン3: MIC INPUT、ピン4: DC BIAS +5V)
ハイパスフィルター (low-freq. roll-off)	125Hz、12dB/Octave
電源	DC3V (単3形アルカリ乾電池2本使用時)
動作温度範囲	-5 °C ~ 45 °C
電池寿命	単3アルカリ電池使用時: 9時間* 充電式ニッケル水素電池使用時: 9.5時間*
外形寸法	64×82×23mm (W×D×H)
質量 (電池除く)	約102g

* 電池の種類、使用方法、使用環境によって異なります。

テクニカルデータ

ATW-T3202

RF出力	High : 10mW、Low : 2mW (switchable)、at 50Ω
ハイパスフィルター (low-freq. roll-off)	150Hz、6dB/Octave
電源	DC3V (単3形アルカリ乾電池2本使用時)
動作温度範囲	-5 °C ~ 45 °C
電池寿命	単3アルカリ電池使用時: 9時間* 充電式ニッケル水素電池使用時: 9.5時間*
外形寸法	ATW-T3202 (マイクロホンカプセル除く): 193mm × φ37mm ATW-T3202/C510: 265mm × φ54mm ATW-T3202/C710: 271mm × φ50mm
質量 (電池除く)	ATW-T3202 (マイクロホンカプセル除く): 約200g ATW-T3202/C510: 約330g ATW-T3202/C710: 約314g
付属品	AT8456a マイクホルダー (ねじ径5/8インチ)、AT8456a マイクホルダー用ねじ

* 電池の種類、使用方法、使用環境によって異なります。

改良などのため予告なく変更することがあります。

株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1

www.audio-technica.co.jp

©2020 Audio-Technica Corporation

製品保証および修理などにつきましてはお買い上げのお店、または当社プロフェッショナルSS課、MI課までお問い合わせください。

ver.1 2019.02.15

232416960-01-02 ver.2 2020.03.15